＜レポート７＞自分では思いもよらなかった解決策や意見を聞けることは非常に貴重な経験となった

１．インターシップ参加の背景

私がインターンシップに参加した総務省東海総合通信局は、ホームページによると「総務省の地方支分部局で全国に 11 の地域毎に設置されている総合通信局のひとつで、岐阜県、静岡県、愛知県及び三重県の 4 県を担当しており、地域の情報化の推進、無線局の許認可等の電波の監理監督、電波の監視及び電気通信事業の登録等、地域における高度情報社会の構築に向けた施策を総合的に推進する機関」です。

私が東海総合通信局について知ったのは、大学 2 年生の冬頃に行われたオンラインでの公務員業務説明会で説明を聞いたことがきっかけです。そこで東京オリンピックに関係者として関わった話などの説明を聞き、興味を持ちました。3 年生になり公務員への志望を固めていく中で、より詳しく知りたいと考えていた時、今回のインターンシップの募集を見かけたため応募しました。

今回のインターンシップでは目的として、①東海総合通信局の業務への理解を深めること②疑問点を見つけ、解消すること③情報通信技術に触れ、仕事のイメージを持つことの三つを挙げ、私は 8 月 23 日、 9 月 7 日、27 日の計 3 日間のプログラムに参加しました。

このレポートではインターンシップの中で取り組んだことを説明し、そこで得られた学びや設定した目標達成を振り返ります。

２．インターンシップの具体的な内容

① 8 月 23 日の実施内容

まず、8 月 23 日のプログラムでは午前中に総合通信局の主要な業務である無線局の許認可業務に関わる航空海上課と陸上課の業務説明を聞き、無線機の使い方や測定についての簡単な体験をしました。航空海上課の説明では無線が人命・安全のために必要不可欠であり、その無線局の許認可業務が無線を正常に使える環境を保つうえで重要であることを知りました。陸上課の説明では私たちの身の回りのものに多く東海総合通信局が関わっていて、許認可で事前に、定期的な検査で継続的に無線インフラを守っていることがわかりました。

午後からは監視調査課の業務説明を聞き、電波監視システム「DEURAS」とスペクトルアナライザの操作体験などをしました。監視調査課の説明では警察と協力した不法無線局の取締映像の中で、午前中に体験した電力と周波数の測定を実際に行っている場面が登場し、体験が実務に自分の中で結び付きました。また、故意でない混信が多くの人々の命や安全に影響を与える恐れがあることを知り、電波の混信や妨害を防ぐ取り組みの必要性を実感しました。

② 9 月 7 日の実施内容

次に、9 月 7 日のプログラムでは午前中に放送課と有線放送課の業務説明を聞き、災害対

応の業務体験をしました。放送課と有線放送課の説明では放送局に許認可を行っている中で、インターネット利用が進み、テレビやラジオにおいては様々な視聴方法があることから、若者のテレビ離れが進んでいる現状を注視していることを知りました。放送局の役割が減少していく中で、放送の基本的性格は１対多で片方向であり、社会への影響が大きいことであるため、災害時の生命・財産の安全確保に役割を見出すことができるという話には納得しました。また、災害時対応の業務体験では臨時災害放送局という災害時に地方自治体が住民への情報伝達手段として、臨時かつ一時的に開設できる FM ラジオの貸与の模擬体験をしました。電話での自治体とのやり取りの模擬を通して、迅速な手続きで必要な情報を提供する流れを理解できました。

午後からはなごのキャンパスへ行き、ローカル 5G について総合通信局から説明を受け、意見交換をしました。また、スターキャット・ケーブルネットワーク株式会社の方からローカル 5G と５G との違いや特徴、構築・運用するうえでの問題点についてローカル５G を推進する事業者目線で私たちにも分かりやすく説明していただきました。その説明により、意見交換の際には生活をより豊かにする活用案を出し合うことができました。

③　９月２７日の実施内容

最後に、９月２７日のプログラムでは午前中に電波利用企画課と情報通信連携推進課の業務説明を聞きました。電波利用企画課の説明ではこれまでのプログラムの中で電波が有限であることを学んでから、知りたいと思っていた周波数の割り当てに関する内容であり、総務省本省が電波の割り当てを決め、それに基づき総合通信局が許認可をする役割や、実際のＦ１レースにおける検討例を用いてた審査概要を学びました。情報通信連携推進課の説明では産学官連携の取り組みとして東海地域の大学や国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）との関わり、支援事業について知りました。また、課題解決に活用することが期待される技術を Q&A 方式で学ぶことで DX（デジタル技術を活用した課題解決）についてより深く考えることができるようになりました。

午後からは NICT の方に来ていただいて業務説明を聞き、DX の事例や持ち寄った解決したい社会課題をどうすれば解決できるか検討しました。専門家の自分では思いもよらなかった解決策や意見を聞けることは非常に貴重な経験となりました。

３．成果や学び

以上のインターシッププログラムを通して、設定した目標の達成度合いを振り返ると、①東海総合通信局への理解を深めることについては 3 日間で様々な課の方から説明を聞き、無線局の許認可・検査や電波監視から産学官連携の取り組みまで情報通信に関わる幅広い業務を知ることができました。②疑問点を見つけ、解消することについては 3 日間すべての日程に若手職員との座談会の時間を設けられていたおかげで、積極的に質問することに慣れていなかった私も疑問を解消することができました。③情報通信技術に触れ仕事のイメージを持つことについては模擬体験や実例を用いた説明により、専門外であった分野の

知識をある程度身に着け、理解することができました。
　私は今回のインターシップで業務理解を深めることと質問力を高めることの大切さを学びました。このことを今後の就職活動でも大切にしていきます。

〈参考文献〉
総務省東海総合通信局　東海総合通信局の概要
https://www.soumu.go.jp/soutsu/tokai/toukyoku/gaiyou/index.html

以上